

ソルガムの主要病害の診断と防除のポイント(2)

雪印種苗(株)千葉研究農場<西原>



条斑細菌病



炭そ病



紋枯病

条斑細菌病 葉に赤煉瓦色の条斑を生ずる。これは葉脈にはさまれながら伸長し、長いものでは葉の全長に及ぶ。多数に生ずれば縞状となり、それが合されば全葉に広がる。病斑の色は品種・系統によって異なり赤紫色、紫褐色、黄褐色など様々である。病斑の葉裏側から濁った水滴が漏れ出る。これは本病原細菌を含んだ菌泥と呼ぶもので、乾くと淡赤色で魚のうろこ状を呈し病葉に付着する。上の写真にもそれが光って見える。

本病原細菌は種子や被害茎葉の上で冬を越す。品種間に強弱の差がある。一般にヘガリー及びその血をひいた品種は弱い。

炭そ病 楕円形または紡錘形で米粒ないしダイズぐらいの大きさの小病斑の表面に黒いかびが現われる。これはよく見ると、ややピロード状の点で、幾分か縦に断続して連なるか、あるいは同心円状に群生する。古くなると、この黒点は消失し、あとは白い斑点となる。多数の病斑が生じ、合さり、ひどい葉枯れを起す。茎を侵されると赤く枯れる。

本病菌は高温を好み、傷口から侵入しやすい。種子または被害茎葉の上で冬を越す。品種間で強弱の差がある。

紋枯病 葉鞘に、褐色の縁をもった円形、長楕円形及びこれらが合さった不正円形の大型病斑を生ずる。初め地際の葉鞘から始まり次第に上に広がり、ついには葉も侵されて腐る。病斑上にはくもの巣状の菌糸がからまり、のちこれが集まって白色から、のち黒色の塊となり、ついにはネズミ糞状となる。これは本病菌の菌核である。

本病菌は土面に落ちたこの菌核や被害茎葉内の菌糸で冬を越す。この菌はイネ紋枯病菌と同一種で、トウモロコシほか各種の作物の紋枯病や牧草の葉腐病をひき起こす多犯性菌である。ソルガムの栽培に当っては極力、通風をよくするよう密植や刈遅れを避け、また早播き、肥料過不足なども発生を促すので避けるように心掛ける。